

Title	Reliability and validity of the Japanese version of the Obsessive-Compulsive Inventory-Revised (OCI-R)
Author(s)	小池, 春菜
Citation	大阪大学, 2018, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/69734
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

論 文 内 容 の 要 旨

氏 名 (小 池 春 菜)

論文題名

Reliability and validity of the Japanese version of the Obsessive-Compulsive Inventory-Revised (OCI-R)
 (日本語版OCI-Rにおける信頼性・妥当性の検討)

論文内容の要旨

【背景】

強迫性障害 (Obsessive-Compulsive-Disorder;以下OCD) の症状評価の中でもThe Obsessive-Compulsive Inventory (OCI) は、強迫症状の重症度と症状dimensionの両方を評価できる自己記入式評価尺度であり、患者および健常者が対象となっている。Foa et al. (2002) は、彼らの作成したOCIの下位尺度のスコアリングを簡素化し、下位尺度全体にわたる重複を減らす等の改良を施したThe Obsessive-Compulsive Inventory-Revised (OCI-R) を開発した。OCD研究における自己記入式尺度では、このOCI-Rが諸外国では盛んに用いられている。しかしながらOCI-Rは、日本語版としての信頼性と妥当性が検討されていない。そこで本研究は、日本語版OCI-Rの信頼性・妥当性の検討を行い、我が国におけるOCD研究の発展に役立てることを目的とした。

【方法】

首都圏の2大学に在籍する254名の学生に質問紙調査を行った。そのうち記入漏れを除いた214名を分析対象とし、追跡が可能であった38名に対して初回調査から2週間後に再度日本語版OCI-Rの回答を求めた。

【結果】

因子構造の検討として確認的因子分析を行った結果、適合度指標は $\chi^2(120)=248.29(p<.01)$, RMSEA=.07, TLI=.87, SRMR=.06, CFI=.90であった。内的整合性についてCronbachの α 係数を算出した結果、「洗浄」 $\alpha = .77$ 、「確認」 $\alpha = .74$ 、「順序」 $\alpha = .63$ 、「観念」 $\alpha = .83$ 、「保存」 $\alpha = .60$ 、「中和」 $\alpha = .49$ であった。再検査信頼性について級内相関係数を算出した結果、「確認」ICC=.74(CI:.55-.86)、「観念」ICC=.86(CI:.75-.93)、「洗浄」ICC=.81(CI:.66-.89)、「順序」ICC=.89(CI:.79-.94)、「中和」ICC=.41(CI:.11-.64)、「保存」ICC=.86(CI:.74-.92)であった。次に妥当性について、強迫症状を測定するMOCIを用いて収束的妥当性を、うつ症状を測定するPHQ-9、不安症状を測定するGAD-7を用いて併存的妥当性を検討した。その結果、日本語版OCI-Rの合計得点は、MOCIの合計得点との間に ($r=.67$)、PHQ-9の合計得点との間に ($r=.53$)、GAD-7の合計得点との間に ($r=.61$) 強い正の相関関係を示した。

【考察】

OCI-R日本語版は信頼性と妥当性を有していることが確認された。今後は、対象年齢を拡大し、臨床群と非臨床群の症状dimensionのプロフィールの違いや連続性を検討する必要があると考えられる。

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 (小 池 春 菜)	
論文審査担当者	(職) 氏 名 主 査 教 授 三 邊 義 雄
	副 査 教 授 片 山 泰 一
	副 査 教 授 清 水 栄 司

論文審査の結果の要旨

強迫性障害 (Obsessive-Compulsive-Disorder; OCD) は、強迫観念と強迫行為からなる強迫症状を特徴とする疾病であり、難治で慢性化・重症化しやすいと言われている。OCDが難治であることの理由の一つとして、OCDの異種性が指摘されてきている。その異種性を形成するものの一つであり、近年生物学的研究でも注目されているものに症状dimensionがある。OCDの病態は多様であり、その病態理解と治療のためには、臨床的有用性が高く、信頼性の高い症状dimensionを評価する尺度が必要であると考えられる。OCDの症状評価の中でもThe Obsessive-Compulsive Inventory (OCI) は、強迫症状の重症度・症状dimensionを評価できる自己記入式評価尺度であり、患者および健常者が対象となっている。Foa et al. (2002) は、彼らが作成したOCIの下位尺度のスコアリングを簡素化し、下位尺度全体にわたる重複を減らす等の改良を施したThe Obsessive-Compulsive Inventory-Revised (OCI-R) を開発した。現在、OCD研究における自己記入式尺度では、このOCI-Rが盛んに用いられている。しかしながらOCI-Rは、日本語版としての信頼性と妥当性が検討されていない。そこで本研究は、日本語版OCI-Rの信頼性・妥当性を検討することを目的として行われた。

研究方法として、首都圏の2大学に在籍する254名の学生に質問紙調査を行った。そのうち記入漏れを除いた214名を分析対象とし、追跡が可能であった38名に対して初回調査から2週間後に再度日本語版OCI-Rの回答を求めた。

確認的因子分析を行った結果、適合度指標は $\chi^2(120)=248.29(p<.01)$, RMSEA=.07, TLI=.87, SRMR=.06, CFI=.90であった。また、内的整合性について算出したCronbachの α 係数は、「洗淨」 $\alpha=.77$ 、「確認」 $\alpha=.74$ 、「順序」 $\alpha=.63$ 、「観念」 $\alpha=.83$ 、「保存」 $\alpha=.60$ 、「中和」 $\alpha=.49$ であった。

次に、再検査信頼性について級内相関係数を算出し、「確認」ICC=.74(CI:.55-.86)、「観念」ICC=.86(CI:.75-.93)、「洗淨」ICC=.81(CI:.66-.89)、「順序」ICC=.89(CI:.79-.94)、「中和」ICC=.41(CI:.11-.64)、「保存」ICC=.86(CI:.74-.92)という結果を得た。妥当性については、強迫症状を測定するMaudsley Obsessional-Compulsive Inventory (MOCI) を用いて収束的妥当性を、うつ症状を測定するPatient Health Questionnaire (PHQ-9)、不安症状を測定するGeneralized Anxiety Disorder-7 (GAD-7) を用いて併存的妥当性を検討した。その結果、日本語版OCI-Rの合計得点は、MOCIの合計得点との間に ($r=.67$)、PHQ-9の合計得点との間に ($r=.53$)、GAD-7の合計得点との間に ($r=.61$) 強い正の相関関係を示した。これらの結果により、OCI-R日本語版は信頼性と妥当性を有していることが確認された。

OCI-Rは症状の内容によるdimensionごとの得点を測定することができ、18項目と治療者も臨床上使用しやすく、回答者の負担もOCIに比べて少ない尺度である。本研究によりそのOCI-Rの信頼性・妥当性が示されたことは、臨床群を含めたさらなる研究が必要であるものの、今後のOCDの症状評価や、この難治な疾患の病態解明を含めた臨床研究の発展にも寄与するものと期待される。従って、本研究は学位に値するものと認める。